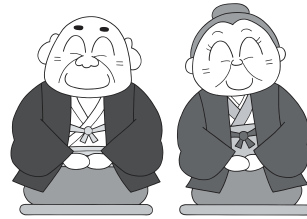




のざわ山門市での「びんころステーション」の様子

していききたい。
問 びんころ運動推進事業と長寿のまち佐久市としての事業内容について。
答 年3回から4回の「ピンピン講座」、健康長寿につながる「びんころ食講座」や「健康講話」を実施する。移動講座として、野沢会館、あいとぴあ白田、駒の里ふれあいセンターでそれぞれ、の事業を実施していききたい。また、びんころステーションと名付け、市内各地で保健補導員の健康に関する自

主活動とタイアップする中で、「健康相談・栄養相談・健康講話」も実施していきたい。



佐久総合病院について



高柳 誠人

(清風会)

問 一部報道による工業専用地域の用途変更は可能で病院が建設できるとの情報があるが本当か。
答 佐久総合病院の盛岡副院長さんが「神奈川県で働いていた時も、工業専用用地を取得し行政の理解を得て病院を造ってきた。不可能ではない。」との発言の事と思うが、神奈川県や鎌倉市に問い合わせをしたところ、当該地は準工業用地であり、当初から病院の建設が可能な場所であった。従って盛岡副院長の発言は事実と異なるわけである。また、ある県議さんが、工業専用地域でも、病院は地域住民の同意と市長の決断で用途変更により建設ができると申しているとの話があったが、一度も私のところに来た事はない。真意を計りかねている。

問 白田地域活性化の計画はどのように考えているか。

答 地域の特性や特徴を生かし、個性ある白田地域の振興とまちづくりを推進するためには、歴史的に見ましても、地域の特徴の最もよいものは佐久総合病院であるので、病院は白田地域の活性化に欠かすことのできないものと考えている。

問 佐久総合病院との接触は。
答 昨年12月、副市長が県厚生連と夏川院長を2度訪ねて、移転候補地として白田地域内の2ヶ所を提示し、検討依頼に合わせて必要となる用地取得などについては市も応分の協力をしていく考えを伝えた。また、本年4月27日に、市長と夏川院長で懇談をもち、まず法的な問題もあるので事務段階で詰める事を提案した。



白田地区全景

望月小学校の建設について 人工透析の夜間までの延長について



小林 松子

(日本共産党)

問 旧望月町の施設整備検討委員会では、現在地での新築のため、体育館か校庭をどちらか使えるようにと計画してきた。しかし、体育館工事の車両が校庭を通るので、体育館が完成しないと校庭も完成しない。すべて完了するのは20年8月だと、4月に説明があった。

・保育料の大幅な引き下げを
・後期高齢者の新しい医療制度について



相沢 昭子
(日本共産党)

問 県内20代から40代までの意識調査では、59%が理想の子どもの数を「3人」としています。しかし、経済的な理由で子どもを持つ事を控えている結果がでました。

答 行政に期待する子育て支援では、「経済的支援措置」を上げた人が74%にもなっています。出生率を上げるために大幅な保育料の値下げが必要で、また、在籍児童に關係なく、1人保育を第1子に、2人保育を第2子にと計算して、上の子どもが学校に行ってもその対象になるようにすべきと考えます。その場合の予算はいくら必要でしょうか。
答 佐久市の保育料は国の基準をより細分化し、払いやすくしています。在籍児童に關係なく保育料算定に多子軽減を行った場合、年間約1億3千万円の予算が必要ですので考えています

問 来年の4月から75歳以上のお年寄りを対象にした「後期高齢者医療制度」が始まります。今、年金から介護保険料が天引きされていますが、合わせて後期高齢者の保険料も天引きされませんか。お年寄りの悲鳴が聞こえてきそうです。この制度はお年寄りの医療の抑制をねらっておりませんか。全県で1つの広域連合を作りませんが、高齢者の意見が聞けるのか心配です。広域連合への対応について伺います。

答 後期高齢者の医療制度については必ずしも賛成とは言えません。今の国の社会保障制度はすべて医療費の削減から出ています。今の国の制度の中で、いかに上手にやっていくかが市町村に問われています。

食育基本法・市内巡回バス・高額療養費の現物支給・広聴事業について



佐藤 悦生
(公明党)

問 食育基本法が成立して2年になるが、食育に関心を持つ人の割合は何%まで

答 設定していくか。平成16年に男女600人を対象に調査した結果、塩分脂肪の取り過ぎに関心があることから、90%以上を目標に啓発していく。



市内巡回バス

問 成人の欠食率は。
答 成人の欠食率は30%であるため、朝食の重要性から15%以下にするため欠食防止対策を行っていく。
問 食事バランスガイドの普及について。
答 地域性を考慮した「信濃の国バランスガイド」作成にあたり、保健指導員の

研修会やヘルスアップ教室など、機会あるごとに普及啓発に努めていく。食育に関する栄養士など関係職や食生活推進改善協議会などと協力を図って食育をさらに推進していく。

問 市内巡回バスについて
答 低乗車率路線対策は、昨年巡路の変更、時間の短縮を図って対応している。高齢者対策のためさらに検討していく。しかし、民営路線バスとの競合は原則としてできないため困難といえる。

問 高額療養費の現物支給
答 分割納付者に対して窓口での「自己負担限度額のみ」の支払いが適用できない

いか。
答 70歳以上の高齢な方、難しい災害に遭い納付が困難な方、保険税を完納している方のみ適用し、分割納付の方は適用できない。
問 広聴事業での市民参画は。
答 7月の広報佐久に意見提案のための封筒付手紙を配布していく。



佐藤博物館寄贈の甲冑等の展示・
ぴんころ運動推進事業について



市川 稔 宣
(平政会)

6月6日・7日の降ひよによる果樹、花、野菜類等の被害に遭われました生産農家の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。
問 財団法人「佐藤博物館」より寄贈の甲冑の展示について、ぴんころ地蔵周辺に展示場の設置はどうか。
答 当面一部を近代美術館に飾り、多くの人に見てもらいたい。450点という数多くの作品なので、将来は人の集まる所に展示場を検討